各　位

２０２１年2月２６日
アチハ株式会社
代表取締役　阿知波　孝明

三井住友銀行による「ＳＤＧｓ(※1)推進融資」の決定と弊社の取り組みについて

アチハ株式会社（代表取締役：阿知波 孝明、以下、当社）は、株式会社三井住友銀行（頭取 CEO：髙島 誠）による「ＳＤＧｓ推進融資」に応募し、ＳＤＧｓの目標達成に向けた貢献が期待できると判断され、当該融資を受けることが決定いたしましたので、お知らせいたします。

※1　ＳＤＧｓとは
Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称。国連総会で採択された、新興国だけでなく先進国等あらゆる国と地域が、貧困や平等、教育、環境等、「誰も取り残されない世界」の実現を 2030 年までに目指す 17 の目標と 169 のターゲットのことです。

１．ＳＤＧｓ推進融資とは

「ＳＤＧｓ推進融資」は、融資実行時に、株式会社三井住友銀行と株式会社日本総合研究所（代表取締役社長：谷崎 勝教）が、企業のＳＤＧｓに関する現状の取り組み状況を確認した上で、本業を通じたＳＤＧｓ貢献への道すじ（ロジック）を分析し、ＳＤＧｓの取り組み推進に向けたアドバイス等を提供する融資商品です。

この度、当社は事業活動を通じてＳＤＧｓの目標達成に向けた貢献が期待できると判断されました。

２．ＳＤＧｓ推進融資の特徴

「持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）」の採択を受け、ＥＳＧ(※2)に配慮し自社競争力を高める企業活動の目指す先に、ＳＤＧｓの達成が意識されるようになってきました。ＳＤＧｓには、企業が最低限取り組むべき、人権・環境・労働・腐敗防止等の観点からの責任を問う内容と、地球規模の環境・社会課題に対し、ビジネスとして解決を期待する内容が含まれています。企業にはその両輪が求められており、事業プロセス全体をＥＳＧの観点から点検・改善しながら、世界的な目標であるＳＤＧｓというゴールに向かって貢献するという役割が求められています。

ＳＤＧｓ推進融資は、ＳＤＧｓに取り組む事業者を支援する趣旨のもと考案され、ＳＤＧｓに向けた取り組み状況を確認した上で、組織のＳＤＧｓへの取り組み姿勢等に対する所

見と、ロジックモデルの仮説を提示し、今後のＳＤＧｓの取り組み推進に向けたアドバイス等を提供するものです。

※2　ＥＳＧとは
「Environment（環境）」「Social（社会）」「Governance（ガバナンス）」の略称。本来は、投資家や金融機関の投資判断を変えるために国連が提唱した言葉です。つまり、投資家の投資判断の基準を変えることにより、ESG に積極的に取り組む企業を増やし、世界規模の環境問題・社会問題を解決することを目的としています。近年、「企業の長期的な成長のためには ESG に取り組むことが重要」との考えが広まっており、多くの企業が ESG に注目しています。

３．フィードバックサマリー

調査票およびヒアリング結果をもとに、当社のサービスがどのようにＳＤＧｓの目標に達成し得るのか、次のとおり確認されました。

企業名	アチハ株式会社
確認結果	貴社は、以下に記す事業を通じて、 **SDGsの目標達成に向けた貢献が期待できる** と判断致します。

事業① 風力発電事業による国内の再生可能エネルギーの普及促進、風力発電設備の輸送・据え付けにおける環境への配慮

長年培われた重量物運搬技術により、風力発電設備のブレードなど大型設備の運搬が困難だった地域でも設備の輸送を実現しておられます。また、風力発電設備の据え付け時に、従来の1/3の面積で建設できる「タワークレーン」を自ら開発し、現場で導入されています。

これまで風力発電の導入が困難だった地域において風力発電が可能となることで、国内の再生可能エネルギーの普及促進に貢献しておられます。また、風力発電設備が従来の1/3の面積で建設できるようになったことで森林伐採が削減されるという効果も期待できます。

7.2 2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。	
15.1 2020年までに、国際協定の下での義務に則って、森林、湿地、山地及び乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系及びそれらのサービスの保全、回復及び持続可能な利用を確保する。	

事業② 鉄道車両運搬事業・リース事業を通じた、車両のリユースの促進および環境意識の啓発

日本のローカル線や発展途上国の鉄道会社に向けて、都市圏の電車車両をリユースする事業を推進しておられます。また、家庭の使用済みてんぷら油を回収してバイオ燃料に生成し、SLの動力として活用されています。そのSLを用いて、地域の子ども向けのイベント等を開催されています。

中古の鉄道車両輸送事業により、廃棄される鉄道車両を減らすことができ、また地方や途上国における鉄道インフラの維持にも寄与されています。バイオ燃料を使ったSL運転のイベントでは、地域住民や子ども達の環境意識啓発や、地域経済の活性化に好影響を与えておられます。

12.5 2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。	
12.8 2030年までに、人々があらゆる場所において、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする。	
8.9 2030年までに、雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業を促進するための政策を立案し実施する。	

（ＳＤＧｓ推進フィードバックレポートより転載）

４．当社におけるＳＤＧｓの取り組み事例

特殊機材（傾斜装置）の使用による環境保護と再エネ普及の促進

風車部材を建設予定地へ輸送するために、森林伐採等による輸送路の開発（道路の新設若しくは既設道路の拡幅等）を伴うケースがあります。その開発を最小限に抑え森林を保護するため、風車の羽（ブレード）を持ち上げて輸送する特殊機材（傾斜装置）を採用しております。それにより、地球環境保護と、従前であれば輸送困難とされてきた案件の成就による再生可能エネルギーの普及促進に貢献しております。

日本初の風車専用タワークレーンの採用

風車の建設にはクレーン等の重機の作業スペースを確保するため、森林伐採等の開発を伴うケースがあります。その開発を最小限に抑え森林を保護するため、国内メーカーと共同開発した、日本初の風車専用タワークレーンを採用しております。それにより、地球環境保護と、風車案件の大型化に対応することによる再生可能エネルギーの普及促進に貢献しております。

バイオ燃料で走る蒸気機関車を用いたリース事業の展開

かつて国内で活躍した蒸気機関車をリユースし、使用済食用油を精製したバイオ燃料でエアーコンプレッサーを駆動させ、その圧力で走行する圧縮空気方式の蒸気機関車を開発しました。2019 年には和歌山県有田川町と共同で「エコフェスタ」を開催し「ＳＤＧｓ号」を運行しました。現在は、全国各地への鉄道車両運搬事業・リース事業を通じ、環境啓発や地域振興に貢献しております。

現在、えちごトキめき鉄道株式会社（新潟県上越市）にリース中です

５．ＳＤＧｓ推進に向けた更なる取り組みの強化

当社は、融資実行時、株式会社三井住友銀行及び株式会社日本総合研究所よりアドバイスを受けた、本業を通じたＳＤＧｓ貢献への道すじ（ロジック）をもとに、更なるＳＤＧｓの取り組み強化を図って参ります。

以上